

# CORSIA認証適合に向けた調査・検討について

2026/7/17

株式会社三菱総合研究所

エネルギー・サステナビリティ事業部門 GX本部  
モビリティ・通信政策本部  
創薬・健康エコシステム本部

## 進捗状況

- CEF原料のデフォルト値が策定され、デフォルト値文書に記載されるためには、サブグループ、ワーキンググループ、ステアリンググループ、ICAO理事会による承認を経る必要がある。(右図参照)
- CEF:CORSIA Edible Fuel(CORSIA適格燃料)
- 2026/7/6～2026/7/10(インドネシア)で開催されたCAEP Working Group5において、主伐材を原料としたクラフトパルプ経由のATJのCore LCA、ILUCデフォルト値の策定についてInformation Paperを提出した。
- 承認フローのSTEP1が完了(右図赤枠)
- 引き続きSTEP2へ向けて、各社からの情報提供も協力いただきながらCore LCAの算定に必要な情報を整理する。
- 2026年9月:Core LCA算定に必要な情報の整理
- 2026年12月:Core LCA素案の算定

Core LCA、ILUCデフォルト値の承認フロー

|        |                           |                                      |
|--------|---------------------------|--------------------------------------|
| STEP1  | ①IPによる周知                  | ● Information PaperをICAO事務局へ提出       |
| STEP2  | ②Core LCAテンプレート提出         | ● Core LCA算定に必要な情報を整理してICAOテンプレートを提出 |
| STEP3  | ③Core LCA算定チーム選定          | ● Core LCA算定チームを2チーム選定               |
| STEP4  | ④Core LCA算定               | ● Core LCA算定チームにおける算定                |
| STEP5  | ⑤Core LCA subgroupでの審議・承認 | ● Core LCA算定結果のCore LCA subgroupでの議論 |
| STEP6  | ⑥WG5での審議・承認               | ● Core LCA算定結果のWG5での議論               |
| STEP7  | ⑦ILUCテンプレート提出             | ● ILUC算定に必要な情報を整理してICAOテンプレートを提出     |
| STEP8  | ⑧ILUC算定                   | ● ILUC算定チームにおける算定                    |
| STEP9  | ⑨ILUC subgroupでの審議・承認     | ● ILUC算定結果のILUC subgroupでの審議・承認      |
| STEP10 | ⑩WG5での審議・承認               | ● ILUC算定結果のWG5での審議・承認                |
| STEP11 | ⑪SG、ICAO理事会における審議・承認      | ● Core LCA及びILUC算定結果のICAO理事会での審議・承認  |

赤字は本調査における検討項目

## 日本の取組状況について

- 以下の内容でICAO事務局へ日本の取組状況を紹介。

|                |                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|----------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 想定樹種           | Hardwood(アカシア、ユーカリ)<br>※他国から樹種の追加要望があれば必要に応じて対応                                                                                                                                                                                                                            |
| 背景             | ユーカリ、アカシアなどは、世界各地で植林が行われており、短周期で伐採・再植林が繰り返される。このように伐採された植林材は、主に製紙用パルプ原料として利用されている。一方で、欧州や北米、日本ではデジタル化の進展などを背景として紙需要の減少が見込まれており、これに伴い製紙用パルプ需要も中長期的に縮小する可能性がある。そのため、既存の植林資源を有効活用する新たな用途の開発が求められている。こうした中、クラフトパルプを原料としてエタノールを製造する技術の開発・実証が進められており、木質バイオマス資源の新たな利用先として期待されている。 |
| 日本の状況          | 日本における例として、木質バイオマスを原料とするクラフトパルプ由来エタノールの製造実証が進められており、2030年頃のエタノールプラントの商用化検討が進展している。また原料となる木質バイオマスについては、既に一定のサプライチェーンが構築されているほか、クラフトパルプを経由したエタノール製造技術についても実証段階を経ており、技術成熟度は高い。こうした背景を踏まえると、木質バイオマス由来エタノールを活用したATJプロセスによるSAF製造の実現可能性は極めて高いと考えられる。                              |
| デフォルト値策定が必要な理由 | 現在のデフォルト値では、森林残渣を原料としたATJのパスウェイにおけるCore LCAデフォルト値があるが、今回想定する植林材は主産物に該当するため、栽培工程における排出量を計上する必要がある。また、植林材の観点では、ポプラのようなSRC (Short rotation woody crop) が登録されているが、FT合成によるSAF製造であり、パスウェイが異なる。以上のことから植林材を原料としたATJパスウェイにおけるCore LCA及びILUCデフォルト値の策定が必要となる。                         |
| 今後の論点          | ①どのような原料を当該プロセスの対象原料として使用可能か<br>②汎用性を持ったCore LCAをどのように算定・設定するか                                                                                                                                                                                                             |
| Appendix       | Core LCAのデータ(栽培工程)<br>概要資料(現地発表資料)                                                                                                                                                                                                                                         |

未来を問い続け、変革を先駆ける

**MRI** 三菱総合研究所